

創立15周年を迎えて



会長 木下 洋
新日鐵住金ステンレス株式会社
代表取締役社長

社団法人ステンレス構造建築協会は、このほど皆様のお陰をもちまして、創立15周年を迎えることができました。

本協会は1994年に設立されました。当時から今日に至るまでの社会情勢は、高度成長型の大量生産・大量消費を指向する時代から、豊かで安定かつ永続的な社会を構築していく時代へと変化してきました。建築分野におきましても「スクラップ&ビルト型」の建築物を安価でかつ多量に供給することから、「安全・安心」の居住空間を確保でき、メンテナンス負荷が少なく長期間資産価値が減じないこと、さらには再利用可能で環境にもやさしい「ストック型」の建築物を求める方向へと変化しています。このように建築物に対する社会的 requirement が変化する中、本協会は国土交通省、建設業界、ステンレス業界など多くの関係者の温かいご支援の下に、ステンレス建築構造材の普及・拡大を目指して15年間活動して参りました。

この間、協会では建築基準法第38条に基づく建設大臣特別（一般）認定の取得をはじめとして、ステンレス構造材の基盤技術開発、各種基準・規格類の整備、高度化を目的とした調査研究活動、機関誌「ステンレス建築」の発行や技術講習会開催などの広報活動、工場認定及び技術者等の認定・検定に関する活動等々幅広い普及活動を行って参りました。いずれもステンレス建築構造物普及の根幹をなす重要な活動で、その成果は施工実績として着実に実を結んでいます。景観性に加え、耐火性や耐震性、さらにはライフサイクルコストに優れたステンレス建築構造物が、これから日本社会に相応しい構造物であることを示し、建築分野に広く普及させるための確固たる基礎は築いたと申しても過言ではないと思っております。

今後、ステンレス建築構造をさらに普及させ、「ストック型」社会構築の一翼を担うまでに発展させていくためには、2次部材を含めたステンレス構造材そのものの低コスト化とともに、各種ステンレス鋼が有する優れた特性を最大限に引き出すことのできる、高度でかつ合理的な設計・施工技術とのコラボレーションが重要となっていくと考えております。このことは、ステンレス建築構造の新たなステージへ移行する時期とも言えると思います。

このような状況の中で、当協会は、この4月に社団法人日本鋼構造協会との合併を予定しております。建設業界を中心に多くの会員を擁する日本鋼構造協会と共に歩むことにより、今後の活動内容の幅が広がるばかりでなく、ステンレス業界に従事する者と土木分野も含めた建設業界の技術者、専門家とが連携を深められることとなり、新たな展開が生まれることを期待しています。

ここに、15年間の本協会活動にご尽力頂きました会員、諸先輩、関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、今後もステンレス建築構造の普及のため、今まで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げ、15周年のご挨拶とさせて頂きます。